

2019年3月20日(水)

ないじえる芸術共創ラボ 古典インタプリタ日誌 ピーター マクミランさんWS 屏風『扇の草紙』—英語にない感覚をどう訳すか—

1,13 回目のご来館

マクミランさん 13 回目のご来館 (3 月 20 日) では、和歌を専門とする若手研究者・岡本光加里さん (東京大学大学院)、凸版印刷株式会社さんのお二方をお招きし、前回に引き続き屏風仕立ての『扇の草紙』についてのワークショップを行いました。



2, 「有明の月」—夜通し物思いにふけるということ—

「いかにせん 別れし夜半を眺むれば慰む宿の有明の月」(上段の扇が対応)。

岡本さんはこの歌を「どうしたらいいのかあしらね。あの人と別れた(時そのままの、つらい思い出のこもった)夜半の空を眺めて、心を慰めてしまう、(そんな、未練を断ち切れないうる私のいる)宿にかかる有明の月よ…」と現代語訳してくださいました。

この歌をどのように理解すれば良いのか、というところからワークショップがスタートしました。

「有明の月」とは、「陰暦十六夜以後の月。夜が明けても、なお天に残っている月(日本国語大辞典)」のことを言います。和歌ではよく目にする言葉ですが、現代ではあまり明確なイメージはないのではないのでしょうか。

有明の月は、恋人たちが別れる朝の象徴としてしばしば登場するモチーフです。

ただし、「別れし」の「し」は過去形の助動詞なので、この詠み手にとっては、恋人と過ごした夜は思い出だということが分かります。

「眺む」は物思いにふける、位の意味ですから、恋人との「思い出の中の有明けの月」と、そのことについて一晩中物思いにふけていていつのまにか出ていた「実際の有明の月」とが重なっているのです。

2019年3月20日(水)

マクミランさんはまず、このように翻訳されました。

What will become of me

I gaze upon the sky?

Recalling the sadness of night we part

But then the morning moon comes

It gives comfort to the house

「いかにせん」は、具体的に何かをしようと思っているわけではなく、どうなるのかわからない、というニュアンスです。

有明の月を「morning moon」にするか「dawn moon」で悩みましたが、dawnの明け方よりも、朝の方がふさわしいのではないかと考え、morning moonとなりました。

別れた朝の朝と今の空を重ねているのが、赤字の部分です。

ところでこの歌は結局、過去の有明の月を見て何がしたいのでしょうか。和歌には「慰む」とあり、思い出をよすがにして心を慰めている、という心情が想像されます。

マクミランさんはこの物悲しい心情を汲み取り、次のように訳に手を加えました。

①What will become of me?

②I gaze upon the sky?

③Recalling the sadness of the night we part

④And feel a quiet comfort in my house

⑤As the morning moon rises.

「comfort」に「a quiet」を加えることで、本当には癒やされていないというニュアンスを込めました。

しかし①と③でそれぞれ表されている心情に矛盾が生じてしまいます。そこで「慰む」という心理についてさらに議論し、少し自嘲的なニュアンスがあるのではないか、という意見が出ました。

「恋人を想って物思いにふける」「過去のことを思い出して心を慰める」というシチュエーションを、和歌で目にすることがありますが、日本人にとってはそれほど違和感のない心情なのではないでしょうか。しかしマクミランさん曰く、英語圏ではあまりない発想だということ。内的な心情であり、ネガティブなイメージがあるようです。このセンシティブな部分を、もっとよく表現する方法をなおも探るマクミランさんです。

さらに、③の赤字部分をもっと短くしたり、有明の月というこの歌の重要なモチーフをクライマックスにするために、⑤を倒置法にしたりして、次のようになりました。

2019年3月20日(水)

What will become of me?

I gaze upon the sky?

Recalling the sad night I passed

But feel a quiet consolation in my house

As the moon of morning rises.

「but」(赤字)を入れることで、①と③の心情の矛盾を解消し、「comfort」を「かわいそうなことに／お悔やみ申し上げます」といったニュアンスがある「consolation」に変え、和歌の世界観を表現しました。

日本語では数文字で澄む概念や感覚を英語であらわすためには、様々な段階を経て解釈し、表現を考える必要があります、とても難しいのです。

3, 翻訳のステップ

最初の翻訳からどんどん変わってゆく様子を拝見し、随分とたくさんバージョンを作られるのだなあと思いました。

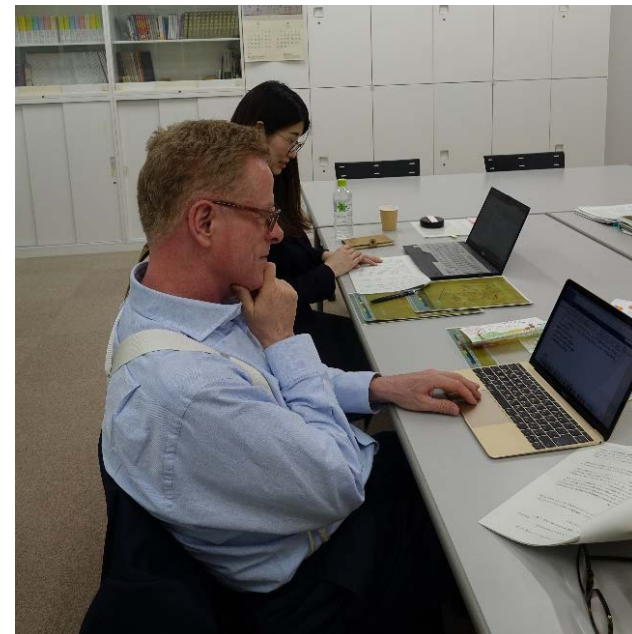
マクミランさんは、一度完璧だと思えるものができたとしても、時間が経つとまた直すべきところが見付かるため、いくつものバージョンを作られるのだそうです。

マクミランさんの翻訳のステップは、まず元の和歌を日本語でど

のように解釈するのかを理解し、今の日本語にない言葉や、現代の日本人が持っていない感覚をどのように理解すれば良いのかを考えるのだそうです。そしてそれを英語の詩として訳してゆかれます。

岡本さんはこの経緯をご覧になり、英語の詩にしても、しっかりと元の和歌の世界に立ち帰ることができることに気づき、和歌の懐の深さに感激されたようです。

和歌の懐の深さ、それは定型詩であるということからきているのかもしれない。



2019年3月20日(水)

4, 色っぽい表現「きぬぎぬ」

「たち帰りとふへき暮はしらね共 この戸はたてしきぬ / \ 空
(岡本さん整理: たちかへり訪ふべき暮れは知らねども この戸は
たてじきぬぎぬの空)」(中段の扇が対応)。

岡本さんの現代語訳は、次の通りです。

「(恋人が) また私のことを訪ねてくれるだろう夕暮れ時は(次は
いつになるのか) 分からないけれども、この戸は締めきらないでお
こう(あの人に来れるように)。きぬぎぬの頃合いとなった空の景
色……。」

この歌にも、和歌によく見られる「きぬぎぬ」という表現—現代で
はあまり馴染みのない—が用いられています。

岡本さんは「きぬぎぬ」について、「後朝」と漢字をあてますが、
そもそも「きぬ」は「衣」の意であること、平安貴族は眠るときに衣
服を脱いでかけて寝具としており、「きぬぎぬ」は互いの服と一緒に
重ねていた恋人同士がそれぞれ自分の服を着て、一人と一人に戻る
ことから、恋人の朝の別れの意味になったということを説明してく
ださいました。

とても詩的で色っぽい表現ですね。

この和歌は、恋人との別れの時に次の訪れを想う歌で、わくわく
している、というよりは、やはり大人の色っぽい雰囲気を読み取り

たいものです。

マクミランさんはまず、次のように訳されました。

- ①I do not know
- ②When you will come
- ③To see me again my night
- ④So I will leave the door ajar
- ⑤At this **sky of parting**

「きぬぎぬの空」を「**sky of parting**」(赤字)としておられますが、
この時点では「衣」の意味が全く入っていません。岡本さんの解説で
あったように、衣を重ねているという意味を重視し「**The sky of robes**」
という表現も提案されました。

しかしこの空が朝であることまで説明しようとするとならば2行になっ
てしまいます。どこをメインに据えて訳を作るのか、ということが
重要です。

つぎに⑤の順番を入れ替えて、このような訳もご提案くださいまし
た。

- ⑤As we part under the sky of morning
And we can sleep under **our shared robes**

2019年3月20日(水)

As we dress and part in our **separate robes** of morning
And we can make a blanket from our robes

袖を重ねて寝ている夜と、それが別れ別れになる朝とを対にして、恋人達の逢瀬と別れを表現しています(赤字)。そこから、「きぬぎぬの空」は「The robes of morning」と表現してはどうだろうか、と考えられたマクミランさん。とても素敵な訳です！

まだ説明的すぎるのでは、ということで、推敲は続きます。

I don't know when
You'll come again by night
And we can make a blanket from our robes
So I'll leave the door open
As we dress (again and part) and part
In our separate robes of morning.

しかしこれでは6行になってしまいます。

先ほどの訳と同様、いったん完成させても何度も推敲し、いくつものバージョンをつくってゆくことで、より良い翻訳ができるのですね。

また、マクミランさんの訳は日本語を単純に英語に置き換えるも

のではありません。英語の詩としてひとつひとつの形式や表現を吟味することで、元々の和歌と同じ重みの新しい英訳が誕生するので



今年度のワークショップは今回が最後でした。6行になってしまったきぬぎぬの空の歌は、いったいどのようになっているのでしょうか。『扇の草紙』2点の和歌のべ66首の英訳完成がとても楽しみです。